

報道関係各位

公益財団法人 笹川スポーツ財団

全国 23 大学 56 チーム 280 人の大学 3 年生によるスポーツ政策学生会議 「Sport Policy for Japan2018」を開催

最優秀賞 明治大学 澤井ゼミナール B

「キャリアスタ同窓会～同窓会は地方と J クラブを救うか?～」

笹川スポーツ財団（所在地：東京都港区 理事長：渡邊一利 以下：SSF）は、日本のスポーツ政策や諸課題に問題意識をもつ大学 3 年生を対象とした、政策提言発表大会「Sport Policy for Japan2018」（SPJ2018）を開催いたしました。参加チームは、10 月 27 日、28 日に口頭発表を行い、事前提出された提言要旨と合わせ、厳正なる審査の結果、最優秀賞、優秀賞・特別賞が選出・表彰されました。

最優秀賞

明治大学／澤井ゼミナール B 「キャリアスタ同窓会～同窓会は地方と J クラブを救うか?～」

選考理由：地方自治体が抱える社会課題や地方 J クラブが持つ問題を解決する実効性の高さを評価

優秀賞（5 チーム）

亜細亜大学／石黒ゼミ A 「母親のスポーツ実施率向上を目指して～保育園の休園日を活用した新規事業の提案～」

静岡産業大学／香村ゼミナール「中学生の運動習慣改善のために～レクリエーション志向の運動部活動普及に向けて～」

東海大学／秋吉ゼミ「非行少年をスポーツで救え！— 総合型地域スポーツクラブを活用した政策—」

立教大学／松尾ゼミナール A 班「特別支援学校における肢体不自由児への『みる』スポーツ支援の確立～『みるパラ!』プロジェクト～」

立教大学／松尾ゼミ B 「働く未婚女性のスポーツ実施率向上にむけた『ゆずプロジェクト』—ウエルネスの観点から—」

特別賞（6 チーム）詳細は次ページ

大阪体育大学 富山ゼミ A チーム

神奈川大学 大竹ゼミナールチーム J

県立広島大学 和田ゼミ

東海大学 大津ゼミ

一橋大学 岡本ゼミチーム I

早稲田大学 間野義之ゼミ

審査員 玉木正之氏（スポーツライター）コメント

本 SPJ には、大会初年度の 2011 年から審査員として関わっていますが、年を重ねるごとに学生たちの提言のまとめ方がますます向上していると感じます。今回、最優秀賞に輝いた明治大学の提言は、地方自治体が抱える人口流出などの社会課題や地方 J クラブが持つ観戦者数の減少などを解決する実効性の高さが評価されました。

日頃、スポーツを学ぶ大学 3 年生がスポーツのもつ価値や社会に与える影響力などについて考えを巡らせ、提言という形にまとめる機会は非常に貴重であり、大事にしてもらいたいと思います。個人的には、提言内容やプレゼン技術が洗練されることを歓迎する一方、大学生ならではの大胆な発想や、ブレイクスルーの可能性を秘めたアイデアをもっと見たいという気持ちも強いです。今後も継続的に関わりながら、そうした点での成長にも期待したいと思います。

	大学名	チーム名	タイトル	概要
最優秀賞	明治大学	澤井ゼミナールB	キャリスタ同窓会 ～同窓会は地方とクラブを救うか?～	Jリーグの試合に、同窓会と就職活動イベントを組み合わせ、地方自治体が抱える人口流出などの社会課題を解決する
優秀賞	亜細亜大学	石黒ゼミA	母親のスポーツ実施率向上を目指して ～保育園の休園日を活用した新規事業の提案～	幼児期以下の子どもの持つ母親に向けたスポーツ活動を促進する新規事業を提案する
	静岡産業大学	香村ゼミナール	中学生の運動習慣改善のために ～レクリエーション志向の運動部活動普及に向けて～	レクリエーション志向の部活の課題や運営上の工夫を整理、今後、同志向の部活が普及を目指す政策を提言
	東海大学	秋吉ゼミ	非行少年をスポーツで救え! ～総合型地域スポーツクラブを活用した政策～	非行少年の再非行を防止するため、スポーツ通じ地域住民とのふれあいを取り入れた政策を提言
	立教大学	松尾ゼミナールA班	特別支援学校における肢体不自由児への「みる」スポーツ支援の確立 ～「みるパラ!」プロジェクト～	肢体不自由児を対象に障害者スポーツに参画するきっかけとしての「みる」スポーツを促す支援策の提言
	立教大学	松尾ゼミB班	働く未婚女性のスポーツ実施率向上にむけた「ゆずプロジェクト」 ～ウエルネスの観点から～	働く未婚女性をターゲットに「スポーツ実施」「働き方改革」「婦人系疾患の予防」の側面から、提言を行う
特別賞	大阪体育大学	富山ゼミAチーム	キャラクターマーケティングを活用した 子どものスポーツ実施率の向上施策	ご当地ヒーロー、キャラクターを通じて、子どもたちにスポーツに関心をもってもらう企画を提案する
	神奈川大学	大竹ゼミナールチームJ	スポーツ界におけるLGBTフレンドリーの実現をめざして ～東京2020のレガシーとして何を残すか～	スポーツ界からLGBTフレンドリーの実現を社会に発信し、世の中の意識改革を目指す
	県立広島大学	和田ゼミ	サンフレツリーズム ～タイ人向けサッカー観戦&広島堪能ツアーの提案～	タイ人向けのサッカー観戦と広島観光を堪能できるツアーコンテンツの企画・提案
	東海大学	大津ゼミ	社会人に向けた運動促進政策 ～ウォーキングに新たな価値を～	スポーツと環境問題の繋がりを意識させ、運動実施率の向上を目的とした「ながら発電」の提案
	一橋大学	岡本ゼミチームI	「マイナースポーツの聖地」創出による地域活性化 ～香川県多度津町をモデルケースとして～	マイナースポーツを活用することで地方の交流人口を増やし、地域の活性化を促す政策を提案
	早稲田大学	間野義之ゼミ	スポーツを通じた国際理解教育 ～エスニックスポーツの教材化に関する提言～	スポーツを用いた異文化受容プログラムをデザインし、国際理解教育を促す政策を提言

※提言内容の詳細は、後日ホームページに掲載予定

Sport Policy for Japan2018 概要

【目的】 笹川スポーツ財団では、スポーツ界に寄与する人材を複層的に育成することを事業の重点テーマのひとつとしており、参加学生が将来的にスポーツ分野の研究者になることを期待するだけでなく、研究者にならずとも「生涯スポーツ振興」の良き理解者として育成され、我が国のスポーツ振興を牽引するリーダーとなることを期待し、本事業を行います。

【主催】 公益財団法人 笹川スポーツ財団
神奈川大学（会場協力）

【日程】 2018年10月27日（土）～28日（日）

【場所】 神奈川大学 横浜キャンパス

【後援】 スポーツ庁、公益財団法人 日本オリンピック委員会、公益財団法人 日本スポーツ協会

【参加人数】 23大学 56チーム 280名

【開催内容】

- ・参加チームは、提言内容をまとめた提言要旨（A4 4枚）の提出と、大会当日に口頭発表を行う。
- ・提言要旨と口頭発表を審査し、最優秀賞・優秀賞・特別賞を決定。

※大会の情報は、下記ホームページをご参照ください。

<https://www.ssf.or.jp/spfj/2018/tabid/1534/Default.aspx>